

入院患者由来 *Acinetobacter baumannii* の各種抗菌薬に対する感受性

¹三菱化学メディエンス 微生物検査グループ、²東邦大学 医学部 看護学科 感染制御学研究室

○天野 綾子¹、伊与田 貴子¹、鈴木 真言¹、松崎 薫¹、長谷川 美幸¹、池田 文昭¹、金山 明子²、小林 寅詰²

【目的】我々は2009年より日本全国の医療機関において分離された *Acinetobacter baumannii* complex を対象に各種抗菌薬に対する感受性を調査している。今回は2011年に入院患者から分離された株を対象に感受性を調査した成績を報告する。

【方法】2011年に入院患者より分離され、VITEK 2により *A. baumannii* complex と同定された229株を対象とした。CLSI M100S22に準じた微量液体希釈法により各種抗菌薬に対する感受性を測定し、非感性率を求めた。またmeropenem (MEPM) 耐性株について metallo- β -lactamase 遺伝子、OXA型 β -lactamase 遺伝子および本酵素の promoter 遺伝子 (*ISAbal*) をPCR法により検出した。

【成績および結論】入院患者から分離された *A. baumannii* complex 229株の由来材料は喀痰132株(58%)、尿68株(30%)、膿13株(5.7%)、血液11株(4.8%)、CVカテーテル5株(2.2%)であった。対象菌株のMEPM、ciprofloxacin およびamikacinに対する非感性率は各々11%、46%および14%であり、感染症法で定められた多剤耐性アシネトバクター(MDRA)は10株(4.4%)存在した。MEPM非感性株は24株存在し、MEPM感性株と比較してcolistinを除く今回測定したすべての抗菌薬に感受性が低下していた。MEPM非感性24株のうち21株において *bla*_{OXA-51-like} が検出され、その上流に *ISAbal* が位置していた。*bla*_{OXA-51-like} が検出されなかった残り3株からは *bla*_{IMP-1} が1株、*bla*_{IMP-2} が2株検出された。調査を開始した2009年より入院患者由来株からMDRAが継続して検出されているため引き続き調査が必要である。

関東近郊の検査センターで分離された *Neisseria gonorrhoeae* の薬剤感受性パターンと遺伝学的検討

¹文京学院大学大学院 保健医療科学研究科、²文京学院大学 保健医療技術学部、³東京大学医学部附属病院

○大神田 敬¹、眞野 容子²、後藤 美江子³、古谷 信彦^{1,2}

【目的】*Neisseria gonorrhoeae* は薬剤耐性を獲得しやすく、近年では治療薬の選択が困難になってきている。今回、関東近郊の検査センターで分離された *N. gonorrhoeae* に対する薬剤感受性試験および遺伝子解析を実施し耐性パターンの検討を行った。

【材料と方法】2005年11月から2010年5月までに分離された100株(2005年10株、2006年29株、2007年32株、2008年13株、2009年9株、2010年6株)を対象に、Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI)の方法に従い薬剤感受性試験を実施し、アシドメトリー法にてペニシリナーゼ産生を確認した。また、ペニシリナーゼ産生株についてPCR法にて耐性遺伝子の検出を行い、BLASTにて塩基配列を確認した。

【結果と考察】PCGのMIC₅₀およびMIC₉₀は2 μ g/ml、 \geq 8 μ g/ml、TCは4 μ g/ml、 \geq 8 μ g/ml、CPFXおよびLVFXはいずれも \geq 8 μ g/mlであり、耐性率もそれぞれ61%、73%、88%、85%と高かった。CFIXおよびCTRXにおけるMIC₅₀、MIC₉₀はCFIXが0.125 μ g/ml、0.5 μ g/ml、CTRXが0.06 μ g/ml、0.25 μ g/ml、耐性率はそれぞれ17%、1%であり、以前検討したもの(CFIX:1997-1999、2003-2004)と比較してMIC値の上昇が認められた。今回分離された100株中89株が被検薬剤に対して1種類以上耐性であり、そのうち8株(9%)が1剤耐性、24株(27%)が2剤耐性、31株(35%)が3剤耐性、25株(28%)が4剤耐性、1株(1%)が5剤耐性であり、およそ64%(57/89)が3剤以上に耐性であった。また、ペニシリナーゼ産生株が4株検出され、遺伝子型はいずれも *bla*_{TEM-1} であった。現在、*ponA* (PBP1)および *penA* (PBP2)のアミノ酸配列を確認し、PBPI、PBP2のアミノ酸配列パターンとPCG、CFIX、CTRXの感受性パターンとの関連性を検討中である。